

各位

2026年6月18日
会社名 のむら産業株式会社
代表者名 代表取締役社長 清川悦男
(コード番号：7131 東証スタンダード)
問合せ先 常務取締役 西澤賢治
URL: <https://www.nomurasangyo.co.jp/>

2026年10月期 第2四半期 決算補足資料

この質疑応答集は、2026年6月11日に発表いたしました2026年10月期 第2四半期決算について、当社で想定していた質問および発表以降に株主、投資家などの方々からいただいたお問い合わせの内容と、それに対する当社の回答について、以下の通りお知らせいたします。なお、本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。また、皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

Q1 | 第2四半期累計では売上高が通期予想の52%、営業利益は約70%まで進捗しています。業績は想定以上に好調ではないでしょうか。

A | 第2四半期累計の業績は、売上高・利益ともに前年同期を上回り、順調に推移しております。特に包装関連事業における包装機械で、前期末時点で積み上がっていた受注案件の納入・売上計上が進んだことが増収増益に寄与しました。

一方で、包装機械は案件ごとに納入時期や売上計上時期が変動する場合があります。当第2四半期においては一部案件の納入時期が前倒しとなった影響も含まれています。そのため、現時点では通期業績は概ね期初計画の範囲内で推移していると認識しております。

Q2 | 利益進捗率が約70%に達していますが、通期業績予想を上方修正しない理由を教えてください。

A | 利益面では高い進捗率となっていますが、その主な要因は包装機械における売上計上時期の影響によるものです。なお、通期における販売計画についても変更はなく、期初の通期計画通りに推移するものと見込んでおります。

また、下期は新米時期を迎えるにあたり、コメ価格の動向による需要の変化や、中東情勢に起因する原材料調達への懸念などから、見通しが立てづらい事業環境となっております。

こうした状況を踏まえ、現時点では通期業績予想の達成を目指す段階であり、業績予想の修正が必要な状況にはないと判断しております。

Q3 | 包装機械の好調は一過性でしょうか。それとも今後も継続すると見えていますか。

A | 現在の包装機械の受注状況は、既存顧客の設備の更新や増設などの需要が重なったものだとして認識しております。この需要は今後も一定程度堅調に続くと思料するものの、既存市場の中だけで長期的に好調を持続できるかは未定です。

今後につきましては、資材と機械を一体で提供するワンストップソリューションの強みを活かし、市場ニーズを的確に捉えた製品開発ならびに、既存事業の需要拡大で保留していた米業界以外の新たな市場への対応を推進し、持続的な成長基盤の強化を目指してまいります。

Q4 | 包装資材の売上高は前年同期比でほぼ横ばいでした。この状況をどのように評価していますか。

A | 前期はコメ不足を背景として、備蓄米対応や小袋資材需要の拡大などにより、包装資材の販売が好調に推移いたしました。一方で、今期はコメ業界において在庫の余剰感が見られることから、市場全体として包装資材の流通量は前年を下回る傾向にあります。

このような環境下において、コメ価格は引き続き高い水準で推移しているほか、中東情勢に起因する原材料調達への懸念も見られたものの、販促活動の強化などにより包装資材の販売は、前年同期並みの売上水準を維持することができました。当社としては、こうした外部環境を踏まえると、底堅く推移したものと評価しております。

Q5 | 中東情勢の影響に伴う原材料価格の高騰の影響はどの程度ありますか。

A | 中東情勢の影響により、原材料価格の上昇や物流環境の不安定化が懸念される状況が続いております。当社においても、主に米穀小売店（町のお米屋さん）向けの既製品米袋（カタログ商品）につきましては、中東情勢の影響に伴う既製品メーカーの品薄状態により一時的に出荷制限が発生していましたが、現在は順次出荷再開をしております。

なお、当社の主力商品である別注品米袋（ユーザー様オリジナルデザイン）につきましては、一時的な供給不安に伴う混乱や原料価格上昇に伴う価格改定などはございましたが、出荷停止なく供給を継続しております。

今後、中東情勢が悪化した場合は供給面での不安が懸念されますが、引き続き取引先と情報共有、連携強化を行い安定供給に努めてまいります。

以上